



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 32

優しさにあふれた国

スポーツキャスター **高橋 尚子**

TAKAHASHI Naoko



PROFILE

1972年岐阜県出身。シドニー五輪女子マラソン金メダリスト。2008年10月に現役引退後、スポーツキャスターやマラソン解説者などとして活躍。09年、月刊「ソトコト」と協働で、ケニアの子どもたちに靴を贈る「スマイル アフリカ プロジェクト」を設立。2011年にJICA オフィシャルサポーターに就任。「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人メンバー。

見えないベールに包まれた国一。昨年ミャンマーに行くまで、私はそんなイメージをずっと抱いていました。でも現地に一歩足を踏み入れた瞬間、それはサーツと取り払われて、国も人も、私にキラキラとした姿を見せてくれました。

現役を引退してから、世界各地で応援してくれた皆さんに恩返しをしたいと、ケニアの子どもたちに運動靴を届ける活動を続けてきました。アフリカには良きライバルのランナーがたくさんいましたし、彼らの祖国のために何かしたいと。そして何よりも、マラソン選手だった私にとって、“靴”には特別な思いがありました。

この活動が縁でJICAの方々とのつながりが生まれ、幸運なことに、オフィシャルサポーターのお話をいただきました。日本の市民の皆さんの代表として、開発途上国に足を運び、その国の日常、そして日本の国際協力の現場で繰り広げられている人間のドラマをしっかりと見て、自分の言葉で伝えていこうと心に決めました。

そして、最初に訪れた国がミャンマーです。この数年で民主化が進み、日本にも少しずつ情報が入ってきてはいたのですが、実際どんな国なのか、どんな人たちが住んでいるのか…まったく想像ができず、行く前は正直少し不安がありました。でも固定観念を持たず、これからミャンマーが、この国の人々が、どのように進んでいこうとしているのかをしっかりと目に焼き付けてこようと思いました。

現地に着いてみると、“謎めいた国”だったミャンマーが、一気に身近になりました。都市にも地方にも美しい風景が広がっていて、人々は目が合うと素敵な笑顔を見せてくれたからです。

JICAが支援するろう学校では、子どもたちのたくましさ逆に励まされました。障害があるがゆえに家庭で居場所がない子もいると聞いていたので、みんなどんな表情をしているのかなと思っていたのですが…。ちょうどJICA専門家の方が手話を教えているところで、みんなとても楽しそうに「今日はこの手話ができるようになったよ!」とうれしそうに見

せてくれたんです。その時の笑顔は、今でも頭に焼き付いています。

そしてもう一つ、印象に残っているのが陸上のナショナルチームです。ミャンマーではオリンピックを知らない人がほとんど。それでも、それ以外の大会に向けて、どの選手も国の代表であることに誇りを持って練習に取り組んでいました。その真面目で誠実な姿は日本人の選手にどこか似ていて、これからがとても楽しみだと思いました。

今回の訪問を通じて、ミャンマーに未知なる可能性を感じる一方、この急速な変化に現地の人たちがついていけるのか少し心配です。彼らがずっと大切にしてきた心の豊かさが失われることなく、この国が発展していくことを願っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索